

日立工場全景 明治四十二年小平氏が試みに自家用の二百馬力電動機を製作して見たらウマク廻轉した……と云ふ當時のバラック建のみすばらしい工場が今日此の寫眞に見る様な日立工場に完備しようとは實に夢の様な發達ぶりである。

龜戸と日立工場を視る

日立製作所の案内により十月二十九日龜戸工場、三十日日立工場を視察した。(AとB)

第一日午前九時丸ノ内日立製作所本社に集合、電氣工業に關する同業記者三十餘名と龜戸工場に到る休憩室にて秋山工場長の挨拶があつて數班に分れ懇切なる説明を聞き各工場を參觀した。同工場最近の進歩發展は實に刮目に値するが殊に鋭意優秀なる國産品の實現に邁進しつゝあるは斯界の爲め意を強ふするものである。斯くて一同は八幡製鐵所注文のヤロー式13,000H.P.汽罐前に記念撮影後神田一橋の學士會館に於ける午餐會に臨んだ、先づ古山常務の挨拶、次に六角取締役の同社が國産品普及に努力し最近倍加せる工場能力を詳述し、是に對し記者團代表として山口電氣日報社員の謝辭があつた。聽て午後三時一行は折柄の雨を衝いて上野に向ふ。

× × × ×

二十九日午後三時小雨の中を小林、北澤兩氏の案内にて上野驛發、助川に着いたのが午後七時すぎ直に驛前の常盤館に入つた。一同入浴後に海近き廣間で晚餐會が開かれた、工場長高尾氏の打まけたあいさつに多數の紅裙連が酒間を賑はして浪の音も聞へぬ盛會に夜

を徹した者もあつた。

翌朝は助川から程近い日立工場の視察に向ふ、馬場博士の案内にて各工場内部を具さに巡覽した。何の工場も中々活潑な作業中であつたが、特に變壓機の製作工場と、發電機の製作組立工場は多數の大物組立中であつた元來發電機、變壓器、油入遮斷器の類は從來殆んど外國品の専用であつたが最近内地工作の發達により、國産の大容量品が續々実用されるに至り、現在日立製作所が製作しつゝあるものに

發電機では

富山縣電氣局の	13,750K.V.A	3臺
東信電氣	11,000K.V.A	6臺
京濱電力	10,000K.V.A	3臺
東信電氣	9,250K.V.A	3臺

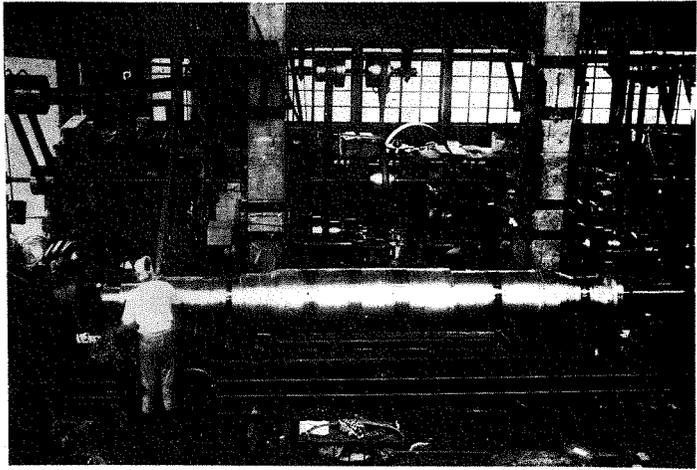
其他變壓器には東信電氣の 18,333K.V.A 4臺の他に昭和電力、日本電力、東京電力、東京電燈等の變壓器、油入遮斷器等がある。

午後は銅線工場を視察した、銅塊を熱してロールに掛け鉛を伸す如く忽ちに細線なる工作狀況は製鐵場に見るの感であつた。

午後三時一同助川驛を發して上野に着いたのは七時過であつた。

日立製作所視察寫眞

11,000K.V.A 發電機のシャフトを製作中の景之は東信電氣株式會社が阿賀野川第二發電所に据付けるもので、落差82尺、流量 2,000個に對し同容量の發電機六臺を製作するものである。



大物工場 發電機組立

岐阜電力株式會社金山發電所の4,620 馬力水車假組立中の景で、之は東京龜戸工場で製作したものである
金山發電所は落差 40,5呎
回轉數 128毎分、渦卷ケーシング口徑10呎6吋、ランナー外徑 10呎4吋

